



# 見沼小だより

平成28年度第10号

平成29年1月31日発行

TEL 048-663-7342

FAX 048-663-9887

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」



「名に恥じぬよう」

校長 大澤 淳

校庭沿いの小さな紅梅の木に小さな花が咲き始めました。まだまだ寒い日が続きますが、着実に春が近づいていることを感じます。成長を続ける植物の力には、毎年ながら感心させられます。

ニュースでは、国技である相撲の話で賑わっています。初場所で優勝した稀勢の里の横綱昇進の話題です。たくさんの報道の中で、努力の人であったことに心打たれます。中学校の卒業アルバムには「天才は生まれつきです。もうなれません。努力で天才に勝ちます。」とあるそうです。中学校卒業後に相撲界に入り、初土俵から15年目、ゆっくりと横綱に昇進しました。「我慢して、腐らずやってきて本当に良かった。」と自分を振り返るその人柄にますます人気が集まっているようです。横綱昇進の口上では「横綱の名に恥じぬよう精進いたします。」と、そして「今の気持ちをそのまま伝えました。」と語る姿には生真面目な性格がにじみ出ていました。

横綱昇進の口上「名に恥じない」と聞いて思い出しました。ちょうど去年の今ごろ、NHKの特別番組で、作家・司馬遼太郎が取り上げられていました。その内容は、司馬遼太郎の作品の中にみられる歴史感を追い求めるといったものでした。その中心は「名こそ惜しけれ」という言葉。それは、鎌倉時代の武士がはぐくんだ、私利私欲を恥とする精神で、自分の名に責任を持ち、自身の恥ずべき行為を律することだとされ、この精神は武家政権の拡大とともに全国に浸透し、武士道とともに日本人の精神文化の源となったという内容だったと記憶しています。稀勢の里関の言葉は、まさにこの精神を受け継いだ坂東武者の言葉だと感じました。

日本の文化といえば、先日、埼玉新聞（1/26）のなかに、次のような小さな記事を見つけました。『エジプト政府は現在、日本の教育に高い関心を示し、児童・生徒に掃除や日直当番をさせるなどして規律や協調性を身に付けさせる「日本式教育」を一部の小中学校で導入している』という記事です。読んだときにとっても嬉しく感じました。それとともに、規律を重んじ、場を浄める心や精神は、「名に恥じぬよう」に自分を律しながら時間をかけて、日本の歴史と伝統の中で育ってきたのだと、あらためて考えさせられました。

「時を守り、場を浄め、礼を尽くす」。10年以上前に勤務していた学校で取り入れていた約束で、近隣の中学校にもこの言葉が掲げられているのを昨年見て、懐かしく、また嬉しく思いました。小学校でも言葉こそ違いますが、この精神のもと教育活動に取り組んでいます。時間を守り、きれいに掃除をし、礼儀を身に付けることは、日本の学校では毎日当たり前のように取り組まれていることですが、その価値をあらためて認識し、見沼小の名に恥じぬよう、子どもの育成に活かしていきたいと思えます。